

授業科目

在宅看護学実習

担当教員名 杉本 洋、稲垣 千文、宇田 優子、小山 歌子、和田 直子	対象学年	4	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	90

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	◎	◎	◎	◎

授業の概要

在宅看護学実習では、在宅の場における看護活動を学ぶ。実習は、訪問看護ステーション等の 実習施設における臨地実習と学内実習を織り交ぜて行う。臨地実習では受け持ちの利用者の看護展開を行うと共に、様々な利用者の方への訪問、その他サービス、会議等実習施設の活動に応じ、在宅看護およびそれを支えるシステムを学ぶ実習を行う。学内実習では臨地実習での状況を確認し、今後の学習方針を教員と共に検討する。最後には学んだことをレポートとしてまとめ、総括する。

授業の目的

在宅の場における看護活動の実際を学び、在宅看護に必要な知識・技術を修得する。

学習目標

1. 在宅の場における看護の役割を説明・考察できる。
2. 在宅の場における療養者や療養環境の理解を深め、在宅の場における看護の特性を踏まえた看護計画を立案できる。
3. 多様な機関および職種、サービス提供体制等、在宅療養を支えるシステムについて説明できる。

授業計画

授業計画・学習の主題	担当教員
訪問看護ステーションや訪問看護部の組織・機能・活動について調べ、臨地実習における問題意識を明確にする。	杉本 洋 他
実習施設における看護師がどのような役割を果たしているかを、実習施設でのオリエンテーションや訪問等を通して学ぶ。	杉本 洋 他
受け持ち利用者の看護展開、受け持ち以外の同行訪問、その他在宅療養者が利用するサービス（通所サービス）等の実習を行い、在宅の場における療養者や療養環境の理解を深める。	杉本 洋 他
受け持ち事例を設定し、包括的な視点を意識した看護計画を立案する。	杉本 洋 他
看護職が他の保健、医療、福祉職等とどのように連携しているかを、多職種間で行われるカンファレンスや、訪問等において連携がうかがえる状況を通して学ぶ。	杉本 洋 他
関係者との連携の機会、または訪問看護以外の利用サービスにかかわる機会があれば可能な限り参加し、在宅療養を支えるシステムについての理解を深める。	杉本 洋 他
臨地実習終盤でのカンファレンスでは学んだことを総括し、表現する。その際の指導者・教員の指導を元に、在宅の場における看護の考察を深め、レポートにまとめる。	杉本 洋 他

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料	実習要項					

評価方法

- 実習の取り組み状況 15%程度
 実習記録（レポート以外）の記述方法の適切性 15%程度
 実習記録（レポート）の記述方法の適切性 10%程度
 実習目標の達成度
 1)在宅の場における看護の役割の理解と考察 20%程度
 2)療養環境の理解と看護計画立案 20%程度
 3)在宅看護を支えるシステムの理解 20%程度

履修上の留意点

在宅看護に必要な看護技術、在宅看護が提供される体制等について事前に学習しておくこと。

オフィスアワー・連絡先

水曜日11時から13時
 sugimoto@nuhw.ac.jp